

東京都事業 令和6年度 西新宿スマートシティプロジェクト
第3回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

- 日時： ■ 2025年3月28日（金）14:00～15:00
- 出席者： 【協議会構成員】
(敬称略) ■ 一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会
■ 小田急電鉄株式会社
■ 学校法人工学院大学
■ 損害保険ジャパン株式会社
■ 大成建設株式会社
■ 東京ガス株式会社
■ 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
■ 独立行政法人都市再生機構
■ 株式会社 JTOWER
■ 東京電力パワーグリッド株式会社
■ ソフトバンク株式会社
■ 東日本電信電話株式会社
■ 株式会社角川アスキー研究所
■ 株式会社ジョルテ
■ 新宿区 新宿駅周辺整備担当部
■ 東京都 デジタルサービス局
■ 東京都 都市整備局
■ 東京都 産業労働局
- 議題： 1. 開会の挨拶
2. 協議会参加者の紹介
3. 今年度の取組スケジュール
4. 令和6年度・第2回協議会の意見に対する対応方針
5. 各部会の活動成果報告
5-1.スマートサービス実装部会
5-2.広報・コミュニティ部会
5-3.データ利活用部会
6. 次年度方針の共有
7. 質疑応答および意見交換
8. 閉会の挨拶
- 資料： 1. 第3回協議会資料

1. 開会の挨拶（事務局）

- 議事次第
- 開会の挨拶

（東京都デジタルサービス局）

- 今年度の協議会の活動については、KGI・KPI に対してさまざまなスマートサービスが実装という形に近付き、成果が見えた一年だった。詳細は後ほど事務局からご報告するが、西新宿のスマートシティ化が着実に進んできていることが目に見えてきている。ひとえに地元企業や関連企業のみなさまのご尽力があり、進んできた。引き続き来年度も継続してお力添えいただくと幸いである。

2. 協議会参加者紹介（事務局）

- 協議会参加者の紹介

3. 今年度の取組スケジュール（事務局）

- 協議会の取組の方向性
 - 資料の通り説明
- 年間スケジュールの確認
 - 資料の通り説明

4. 令和6年・第2回協議会の意見に対する対応方針

- 資料の通り説明

5. 各部会の進捗報告

- 各部会の進捗報告

1.1 スマートサービス実装部会（P.11-15）

- 各取組について
 - 資料の通り説明

1.2 広報・コミュニティ部会（P.16-20）

- 各取組について
 - 資料の通り説明

1.3 データ利活用部会（P.21-25）

- 各取組について
 - 資料の通り説明

6. 次年度方針の共有

- 令和7年度の方針
- 資料の通り説明

7. 質疑応答及び意見交換

—以下意見交換内容—

(発言者 A)

- 新宿区も参加する（仮称）西新宿地区再整備推進検討会が将来像についても詳細が発表されており、スマートシティに関連する所もある。また、小田急電鉄らが実施されている新宿駅西口地区開発計画に関しても、新宿駅周辺において様々な企業と連携して実施していくものと思う。
- 西新宿も細かいビジョンが作られているため、新宿区・小田急電鉄をはじめ、スマートシティ協議会や環境改善委員会のみならずと連携している姿が見える化できると良い。

(発言者 B)

- スマートポールのデータ提供実績について、研究機関でのニーズが把握できた一方で、売り上げになりにくいという点は課題である。その実態を踏まえると、民間企業が積極的に活動することが難しい点は課題ではないか。

(発言者 C)

- 規制の関係があると思われる。他自治体や他エリアの事例を見習いながら課題解決を検討できると良い。

(発言者 D)

- スマートポールのデータにある Wi-Fi データについて、都では認証基盤を持っているオープンローミング対応 Wi-Fi の整備が推進されている。オープンローミングはオートコネクト機能がついており、セキュリティも保証されている。これらは、WBA というカリフォルニアのオープンローミングの国際規格にしている団体と連携して都内で広げる取組が実施されているが、現段階でも 900 近い都有施設に導入されており、今後も拡大する見込みである。
- 本日の事例においても、データを防災に活用いただいているが、有事の際の情報連携には課題も多い。Wi-Fi データのリアルタイム性を活用した情報発信の可能性なども考えられる。
- 災害時のシミュレーションなどに役立てていくためには、実際の活用事例を共有していくことで、よりよいサービスに繋がられるのではないか。
- エネルギーマネジメントに関しても、西新宿発で実施できれば良い。カーボンクレジットの取組は全世界的に重要なので、エネルギーマネジメントや防災にデータを活用いただけるとより良いの

ではないか。

(発言者 E)

- 西新宿のエリアマネジメントはさまざまな企業が一緒に取り組まれており、サービスが多様。また、コミュニティに関しても多くの方に参加いただいております、非常に良い取り組みと考えています。本日は3つの参考となる取組を紹介する。
- 1 つ目はコミュニティを生かして空間の魅力をあげていく取組。東池袋の取組で、企業や豊島区、コミュニティが一丸となって実施している。
- 2 つ目はアウトカムとして西新宿の空間が変わると行動がどのように変化するかを確認する取組。大阪の御堂筋をウォークブルにすると、どのように消費行動が変わるのかを細かく分析されている研究がある。
- 3 つ目は15分都市(15-Minute City)のランキングについて。昨年度の第1位はミラノで東京は50位だった。アジアでは台北やシンガポールが東京よりも高い水準にあるが、今後グローバル企業や国内企業もオフィスの出先を検討する際に参考にする指標になるかと思う。地理空間データを確認すると西新宿の15分都市度を計算できるので、新宿区や小田急電鉄の再開発の計画が達成されると、どのような変化につながるのかを西新宿で測ることが出来ると良い。
- 西新宿が目指す姿を共有することについても、西新宿が歩いていて気持ちのいい場所であることを可視化することが大切で、これらの取組を参考にしてください。

(発言者 F)

- 自動運転の取組について、推進区域内では、社会必要性向上の取組のほか、行政手続きや関係者調整等を効率化するなど、事業者を支援する取り組みが実施されている。西新宿では、2月からレベル2の自動運転バスの取組が行われている。

8. 閉会の挨拶(事務局)

■ 閉会の挨拶

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- 環境改善委員会は、西新宿スマートシティ協議会の共同事務局として5年ほど活動してきました。今回も西新宿を起点としてさまざまなテーマで複数企業の方々にご報告いただきました。
- 2030年ごろに向けて西新宿の空間は大きく変わる予定だ。道路も変わり、都庁周辺も変化する。都市空間の再編と相まったデジタルの可能性を感じている。まちが変わることの発信や、まちが変わることに関するデータを踏まえ、行動変容をどのように見える化していくかという点ではデジタルが生きてくる。
- まちづくりが完成した後に、デジタルを後付けすると使えないことが多くあるが、ここまで一緒に検討してきた実績もある。今後もデジタルの側面から、まちづくりと一緒に検討を深めていき

たい。

- みなさまにご尽力いただき、成果が上がってきた。引き続き西新宿のまちづくり、東京都全体のデジタル化を一緒に進めていきたい。

以 上